

# 生徒が主体的に課題を解決するための指導の工夫

一つまずきを即時に把握し支援するための教育支援アプリケーションの活用を通して

特別研修員 商業 新井 政和（高等学校教諭）

## ★生徒の課題★

- 授業に対し受け身な生徒が多い。
- 目標に向けて、授業以外で努力する時間が少ない。

## ★教師の課題★

- 教師主導の授業展開が多い。
- 生徒の疑問やつまずきを把握するのが難しい。



教育支援アプリ・  
スマートフォンの活用

## 回答や質問への 抵抗を無くす

- ・スマートフォンから質問や回答を入力させ、その内容を匿名にすることで、質問や回答をすることへの抵抗を無くす。



教育支援アプリ・  
スマートフォンの活用

教育支援アプリ・  
スマートフォンの活用

## つまずきや疑問を即時に把握

- ・生徒の質問を複数同時に受け付け、全体や個人をつまずきを把握する。
- ・生徒の回答を即時に把握し、判断の分かれた問題や正答率の低い問いを把握する。



## 双方向性のある授業展開

- ・集計された生徒の回答や質問の内容により、クラス全体や個人に支援をする。
- ・生徒と教師の双方向性のある授業展開にすることで、学習へのモチベーションを高める。
- ・生徒の理解度を高めることで自学自習へのモチベーションを高める。

## ★目指す生徒像★

- 授業内容を理解し、知識が定着することで、主体的に授業に取り組むことができる。
- 目標に向けて、家庭での学習が定着している。

## ★目指す教師像★

- 生徒の記述や質問を基に、生徒主体の授業展開ができる。
- 生徒の疑問やつまずきを即時に把握して、的確に個別支援ができる。

## 成果◎ と 課題●

- ◎生徒個人のスマートフォンを活用することで、文房具のように自然に活用でき、入力した回答や質問が授業展開の中ですぐに使われるので、生徒が主体的に回答や質問をするようになった。
- ◎生徒の疑問やつまずきを即時に把握することで、教師による説明の一部を省くことができ、生徒が説明する時間等を十分に取れるようになった。
- ◎学習課題への再チャレンジや授業時間以外の質問等、これまで以上に主体的に学習に取り組むようになった。
- 教材のデジタル化等、著作権に配慮した教材作成や指導計画を立てる必要がある。
- アプリケーションの全ての機能を最初から利用するのではなく、生徒が主体的に取り組めるように段階的に利用する必要がある。